

令和7年度 園芸科・商業科「家庭総合」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	園芸科・商業科 1年AC組
教科書	家庭総合（第一学習社）	副教材等	担当者による自作プリント

1 学習の到達目標

- ・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的に身に付けるようにする。
- ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- ・様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

2 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4 5 6 7	第1章 これからの人生について考えてみよう 第2章 自分らしい生き方と家族 ①自立と共生 ②ライフキャリア ③共に生きる家族 ④家族に関する法律 第9章 ①消費行動と意思決定 ②消費生活の現状と課題 ③消費者の権利と責任 ④ライフスタイルと環境	◆家族 1-1 自分をみつめる 1-2 共に生きる家族 1-3 家族に関する法律 1-4 労働と生活時間 1-5 社会の変化と消費生活 1-6 消費者の権利と責任 1-7 社会保障のしくみ ◆消費者として自立する 消費行動を考える 消費行動と意思決定 社会の変化と消費生活 ◆衣生活	家庭総合を学ぶにあたって ・人間形成の面での家族の基礎的役割とその重要性について理解する。 ・家族周期の意味を知り、家族の発達段階によって課題がそれぞれ相違することを理解する。 ・多様化・個性化の時代を迎え、家族をまもる法律(民法)の重要性がいちだんと増していることを理解する。 ・人の一生と法律とのかかわりおよび家族に関する法律について理解する。 ・改正案と比較しながら現行民法の問題点を考える。 ・家族・家庭に求められている諸機能とその変化について理解する。 ・家族形態の相違による家庭生活のあり方について検討し、その多様性を理解する。 ・家計管理・社会保障について理解する。 基礎縫いの練習	ワークシート 行動観察 発表 ワークシート 行動観察 発表 ワークシート 行動観察 発表
9 10 11 12	第7章 ①人と衣服のかかわり ②衣服の素材の種類と特徴 ③衣服の選択から管理まで ④持続可能な衣生活をつくる ⑤私たちがつなぐ衣生活の文化 ⑥衣服をつくろう	◆衣生活 2-1 人と衣生活のかかわり 2-2 衣服の素材の種類と特徴 2-3 衣生活の管理 2-4 被服実習	・季節ごとの着こなしについて考える。 ・衣服の起源や歴史、風土に適した衣服について知り、人はなぜ衣服を着るのか考える。 ・衣服が持つ機能や安全性などについて学ぶ。 ・実験(5分間でどのくらい汗をかくのかみてみよう) ・快適な衣服の特徴や機能について考える。 ・暮らしの中での素材衣服の性能と改善について学ぶ。 ・衣服素材の種類、繊維の種類と特徴、衣服素材の性能について理解し、用途に応じた素材の選択ができるようにする。 ・衣服の加工技術について理解する。 ・衣服の入手から処分までの流れを学び、衣生活の計画を考える。 ・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について学ぶ。 ・衣服の表示にはどのような種類があるのか、なぜついているのかを理解し、購入から洗濯などの管理に役立てる。 ・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について理解し、衣服の種類に応じた適切な選択や保管ができるようにする。	ワークシート 行動観察 ワークシート 行動観察 発表 ワークシート 行動観察 発表 ワークシート 行動観察 エプロン

			・実験（界面活性剤のはたらき） ・衣服の選択の重要性について理解する。 ・健康で快適な衣生活を営むために必要な被服材料、被服管理などの基礎的・基本的な知識と技術を学ぶ。 ・環境負荷の少ない購入・管理・消費について問題意識を持つ。 ・衣服の機能と衣生活文化を理解するとともに、着想の工夫や消費行動における課題を探る。 ・個人と社会のかかわりを理解し、主体的に生活設計できる力を養う。 ・衣服製作実習を通して、材料の選択、日常の管理の方法を習得するとともに、手縫いなどの縫製技術を身につけ、日常着の作成ができる。 ・完成した作品をししゅうなどを施すことにより、自分らしさを表現することができる。 ・衣服実習において、製作活動に意欲的にとりくんでいる。	ワークシート 行動観察 ワークシート 行動観察 発表 ワークシート 行動観察 発表 ワークシート 行動観察
1 2 3	第8章 ①人間と住まい ②住まいの文化 ③住まいを計画する ④健康に配慮した快適な室内環境 ⑤安全な住まい ⑥持続可能な住まいづくり	◆住生活をつくる 3-1 人間と住まい 3-2 住まいの文化 3-3 住まいを計画する 3-4 持続可能な住まいづくり	衣生活の文化や、自分の衣生活をとりまく状況について関心を持ち、衣生活の改善・向上に積極的にとりくもうとする。 衣服材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識や、縫製技術を身につけることによって、衣服を適切に選択し管理することができる。 ・自分自身の衣生活の状況について関心を持ち、課題を発見し、衣生活の改善・向上に積極的に取り組もうとする。 ・衣服材料・衣服管理・整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。 ・衣類の購入から、衣服整理・管理、廃棄まで、実生活において計画的な衣生活を営むことができる。 ・衣服材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識を身につけることによって、衣服を適切に選択し、管理することができる。	ワークシート 行動観察 発表 ワークシート 行動観察 住居実習課題

3 評価の観点

知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価基準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ

家庭科では、人間らしい生活をするために、何をどのように食べるのか、何を着て、どう住まうのか、どのような家族や地域をつくっていくのか、そしてそれらに社会がどう関係し、地球規模での環境問題や生活課題がどうつながっているのかなどを学び、自分の生活を自分でデザインする力を付けます。

豊かで主体的な生活を送るために、まずは現在の自分の日常生活に関心をもつことから始めてください。授業では講義や実習、個人作業など様々な形態の学習活動を行います。いずれも積極的に取り組み実践力を身に付けて欲しいと思います。